

平成28年度 地域別座談会の回答について

3か年計画

Q. 次期3か年計画の各項目の進捗状況の確認、効果の検証については、どのようなスケジュールで行われるのか。

A. 3か年の計画については、単年度ごと深く掘り下げて毎年度計画を策定しています。その際、中長期の状況を単年度計画のなかで修正しながら、落としこんでいきます。定例の理事会等においても進捗状況は報告しており、さらに今年度は、通常総代会の事前説明会においても現3か年計画の進捗状況について総代のみなさまに報告させていただきました。これからもご質問の趣旨に合うよう引き続き取り組んでまいります。

中心市街地活性化

Q. 「まんさいかん藤枝」の立体駐車場について、隣接するJA施設の見直しとありますが、その構想についてお伺いしたい。

A. 「まんさいかん」周辺は、頻繁に渋滞するため事故の件数も多く、警察から再三の渋滞緩和の改善要求がありました。特に「まんさいかん藤枝」では、お客様が集中するため、他の3店舗への店舗間配送や自己搬入などを検討し、取り組んできましたが、なかなか改善できなかったため、生産者のみなさまに協議をしていただき、立体駐車場の建設に至りました。

今後の構想については、大きな農家だけを育てるのではなく、小さな農家も育てるために、新しい時代の新しいシステムに変えていかなければならないと考えています。福岡県のJA糸島の産直市場「糸都菜彩」では、昔からある地元のご馳走や惣菜などで人気を集めています。JAおおいがわでも地域の役員と組合員のみなさんによる徹底的な話し合いにより、農家のためになる店舗にしていきたいです。

賑わい交流拠点整備

Q. R473 の賑わい交流拠点の建設について、収用金額と建設金額について教えていただきたい。また、この地域の今後の発展のためにも、ぜひ建設を進めていただきたい。

A. 収用金額については、まだ国からの明示がされておらず、また建設金額についても現在プロジェクトを立ち上げて検討しているところです。この事業については、自信をもって推し進めたいと考えており、行政をはじめ、様々な団体により協賛や支持の声もいただいています。この地域のみなさまの協力なくてはなし得ない事業でありますので、積極的な参加をお願いしたいと考えています。

営農指導

Q. 以前より何度も提案している案件ですが、営農指導員による指導強化をお願いしたい。

A. 指導技術向上のため、昨年1人、4月からは2人の職員を種苗会社に1年間研修派遣することになっています。研修終了後は、その成果を他の営農指導員に伝え、情報共有することで職員のレベルアップを図ります。全職員が総合的に全ての仕事についてレベルアップできるような体制を作っていきたいと思えます。

Q. 家庭菜園や放棄地を活用し、准組合員を対象とした「あぐりセミナー」を開いたらどうか。

A. あぐりセミナーについては、大変ためになるとの声をよく聞くようになりました。家庭菜園をやっている人が、栽培技術だけでなく、残留農薬のことなども勉強していただき、ぜひ「まんさいかん」の出荷者メンバーに加わっていただきたいと思えます。すべての地域で開催というわけにはいきませんが、前向きに検討していきます。良い提案をいただきありがとうございます。

鳥獣被害対策

Q. 鳥獣被害対策としてJAの補助事業がありますが、ぜひJAの資材価格も下げてほしい。

A. 資材価格については、JA統一ブランドや規格を統一することで、品質を確保しながら価格引下げに対応していきたいです。

また、移動処理車については、日本ジビエ振興協議会に照会を行い、県が安全性について現在確認中です。導入については3市1町共同で検討しています。なお、電柵やおりについては補助事業をぜひ活用していただきたいです。

まんさいかん

Q. まんさいかんの出荷手数料が高いのではないかと。また、出荷者奨励としてポイントの付与を検討してほしい。

A. JAおおいがわの出荷手数料は特別高くはないと考えています。新しい投資もし、出荷者奨励ではありませんが、農産物PRユニット「茶果菜」も無報酬で側面から地元の農業を支援してくれています。

ポイントの付与については、出荷者協議会等とも十分検討したうえで結論を出していきます。

震災時対応

Q. 今後予想される震災発生時の対策やJAの考え方を農産物の流通面、販売面を含め教えてほしい。

A. けが人などの集中が予想されるなか、病院に避難した人の食糧支援の対応として、藤枝市・焼津市・島田市と協定を結びました。万が一物流機能がストップした場合でも、病院等へ生産者が農産物を搬入できるよう対策を検討しているところです。災害時に地域を守るため、みなさまのご協力をお願いします。

コスト削減

- Q. 以前に比べればホームセンターとの価格差も少なくなっていると実感しますが、その分在庫が少なくなり急を要する資材などの調達に時間がかかり。生産資材の在庫を増やしてもらいたい。
- A. 生産資材は、レタスやミカンなどの部会員と営農指導員で話し合い、作物ごとに肥料農薬予約注文書を作成しています。予約資材は商品の見直し、仕入れ業者の選定などにより、低価格化にも努めています。
- 在庫については、店舗スペース等の問題もありますが、注文システムや配送システムの再構築を含め検討していきます。

高付加価値米について

- Q. お茶は、いろいろな地域で産地化されていますが、JAが主体となり「JAおいがわのお茶」などのブランド化が必要ではないかと考える。アメリトマトのようなブランドができるよう、JAが強いリーダーシップをとり進めてほしい。
- A. ブランド化、差別化を図っていかなければならない時代になったことは間違いなく、お茶もブランド化していかななくてはならないと思っています。今考えているのは、高付加価値米の「金芽米」を管内の米を使って販売できるよう、栽培方法を確立していく予定です。すでに企業へ職員派遣もして、職員による研修会を行うなど米の生産に力を入れていきます。

金融事業

Q. マイナス金利のなかで、貯金運用について教えてもらいたい。

A. マイナス金利は、日銀が大手銀行に対して行っている政策です。JAは、組合員のみなさまから貯金を受け入れ、それを原資として資金を貸し出しています。残った資金を「余裕金」と呼び、県信連に預金として運用しています。

貸出金は地元への貸し出しであり、社会貢献にも繋がりますので、今後は貸出金の運用を増やしていきたいと思っています。

Q. 年金友の会の活動で、歌謡ショーやグラウンドゴルフなど開催し、大変喜ばれている。特に歌謡ショーは多くの会員が楽しみにしており、今後も継続をお願いしたい。

A. 厳しい経営環境のなかで、全国的には歌謡ショーを中止しています。これに変わる対応策を検討していますが、楽しみにしている会員のためにも来年度は開催することにしました。あわせて、出席率を上げる努力も検討していきたい。今後については、費用対効果をにらみながら、何が1番いいのか考えていきます。

広報活動

Q. 「茶果菜」の今後の活動について、ユニットを分けるなどして多くのイベントに対応してほしい。せつかくの農産物PRユニットであり、息の長い活動をお願いしたい。

A. もともとは小人数でいくつものイベントに対応していく予定でしたが、まだ経験も浅いため全員での活動となっています。9月下旬から各種イベントに参加していて、お客様から大変好評をいただいています。今後、活躍の場が広がり、今以上に地元農産物のPRをしていきたいと思っておりますので、ご支援をお願いします。